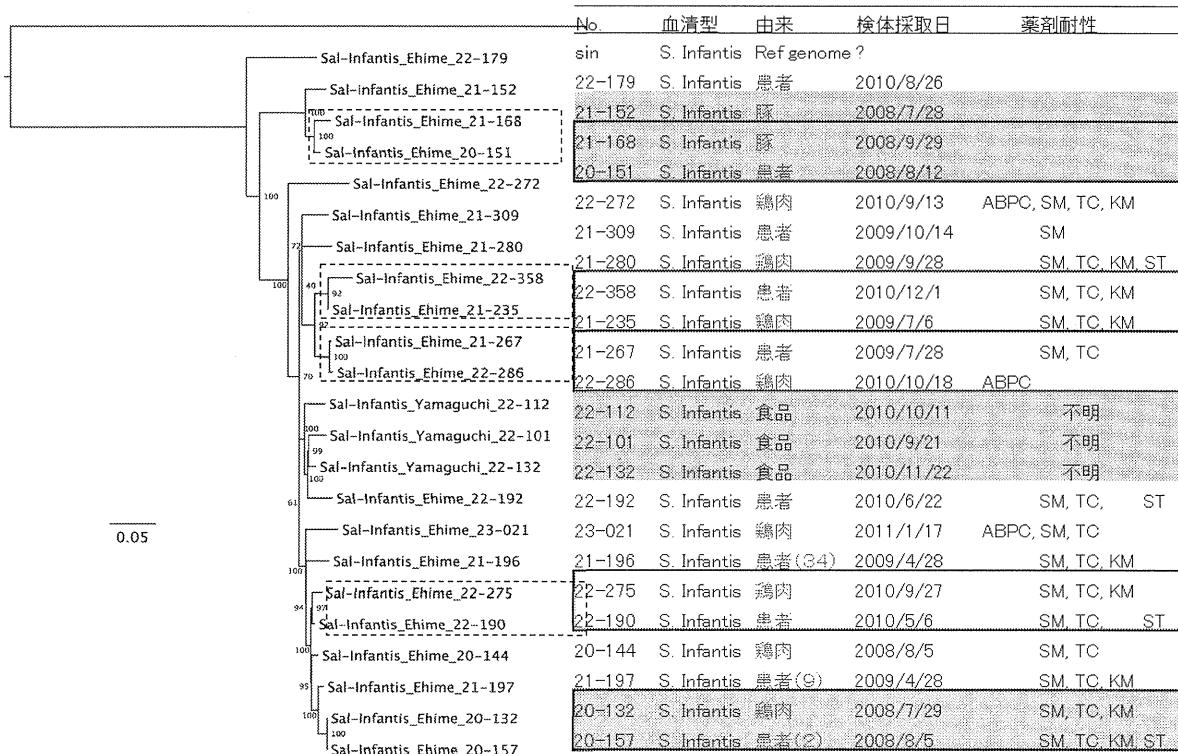


図 4 *S. Infantis* の PFGE 解析(*Bln I*, *Xba I* 複合解析)  
(同一パターンを示したグループを太線 1~11 で表記)



食材・家畜由来株と患者由来株間に非常に類似したペアを黒枠で囲む。特に、20-132と20-157は同一SNPで、同じクローニングの可能性が高い。山口株(黄色)は愛媛株とは分かれた。

図 5 S. Infantis 株の NGS 解析に基づく系統解析

(1,394 SNPs 抽出し, RAxML(最尤法), bootstrap 1,000 回で系統樹作製)

平成25年度厚生労働科学研究  
「地方衛生研究所の連携による食品由来病原微生物の網羅的ゲノム解析を  
基盤とする新たな食品の安全確保対策に関する研究」  
調班第2回会議 オフィス東京事務所会議室(C5), 2014.1.16

## 今年度の研究実施報告及び 今後の予定等について

愛媛県立衛生環境研究所

## 第2回研究班会議報告内容の概要

## 1. 今年度の研究実施内容の報告

- A. 新しいタイプの*Salmonella enterica* serovar 4,5,12:i:- 株の同定
    - 1) 同株のゲノム解析
    - 2) 同株の薬剤プラスミド解析
  - B. *Salmonella enterica* serovar Infantis のゲノム解析

2. 今後の予定(案)

## 2. 今後の予定(案)

## 愛媛県におけるサルモネラ分離株(2008–2010年)の血清型

サルモネラ分離株の

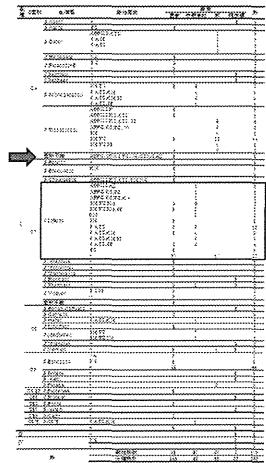
藥剤耐性状況

◆分離株262株中、いずれかの薬剤に対して耐性を示した株は、患者由来株141株中31株(22.0%)、食材由来株48株中47株(97.9%)、家畜(豚)由来株48株中25株(52.1%)、爬虫類由来株25株中2株(8.0%)。

◆患者由来株については、*Salmonella* O4型別不能株が7割に対して耐性を示し、2000年以降世界的に拡散しているESBL産生菌であることが判明した。また、6剤に耐性を示す *S. Choleraesuis* 1株が分離された。患者由来株の多くを占める *S. Enteritidis*は48株中4株(8.3%)に、*S. Infantis*では31株中14株(45.2%)に耐性が見られた。

◆市販食材由来株のうち薬剤耐性を保有していないかった菌株は*S. Thompson* 1株(すっぽん由来)のみであった。

◆家畜(豚)由来株の *S. Typhimurium* は27株中22株(81.5%)が耐性菌であり、そのうち4株はABPC, CP, SM, TC, STの5剤耐性であった。一方、*S. Infantis* 10株は耐性を保有していなかった。



4

## O4型別不能株の性状

1. O抗原がO4、H抗原の1相がi、2相が決定不能の、*Salmonella enterica* serovar 4:i:-（以下、S. 4:i:-愛媛株）である。
  2. ABPC, CP, SM, TC, NA, CTX, CAZ の7剤に対して耐性であるESBL（基質特異性拡張型β-ラクタ

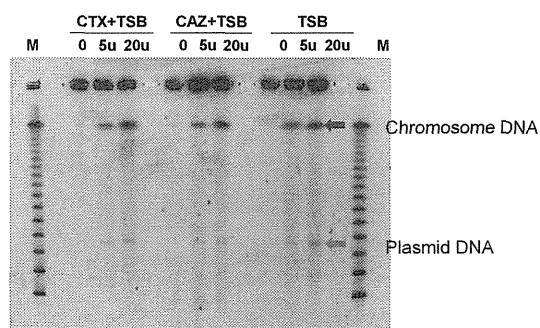
↓

NGS解析で、より詳しい性状を明らかにする

5

## S.4.1.1 株のゲノムおよびプラスミドのNGS解析

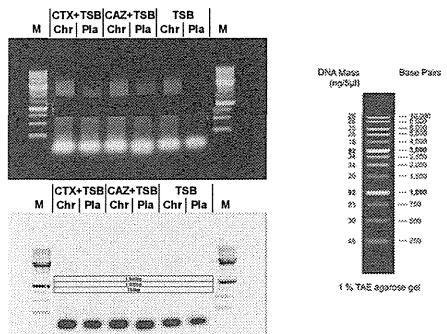
#### (1) S1 nuclease PFGE によるゲノムおよびプラスミドの調製



6

## S. 4:i:- 株のゲノムおよびプラスミドのNGS解析

(2) S1 Nuclease PFGE ライブライ (chromosome, plasmid) の  
切り出し

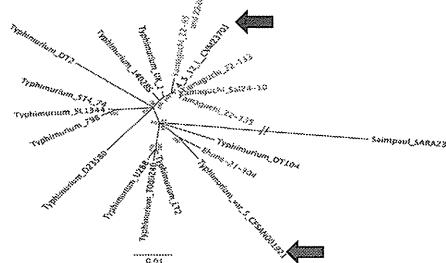


7

## S. 4.i:- 株のゲノムおよびプラスミドのNGS解析

### (3) S. 4.i:- 株ゲノムのNGSシークエンスに基づく系統解析

(22,870 SNPs を用いてRAxML(最尤法,bootstrap 1000回)にて系統解析)



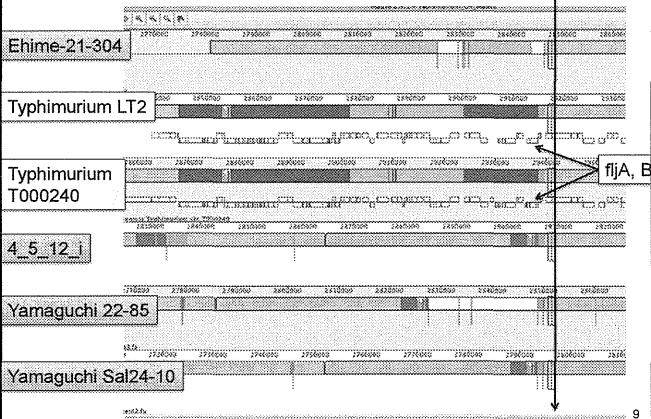
愛媛株は、*Salmonella* 4,[5],12:i:-, CVM23701株とやや異なる。

Salmonella Typhimurium var. 5, CFSAN001921 (4,12:i:1,2)と近縁。これのH抗原欠損株？

8

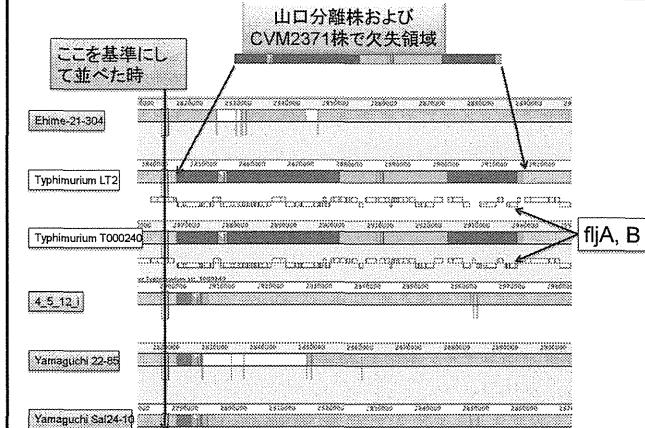
## fliA, fliB 近傍配列のアライメント

ここを基準にして並べた時  
(クリック！)



9

山口分離株および  
CVM2371株で欠失領域



各配列の赤い縦線は、contigの切れ目を意味する。バラバラのcontigをLT2に合わせて並べているため、contigの切れ目を可視化している。

10

#### S. 4:i:- 株のゲノムおよびプラスミドのNGS解析

#### (4) ゲノム情報からの結論

山口県のSalmonella O4およびSalmonella 4,5,12:i: CVM23701は、Fels-2phageおよび、その下流のfijBまでを大規模に欠失。  
この領域→ 

Core-Genome SNPs系統解析の結果と同様に、4,5,12:i: CVM23701 と非常に近縁であることが判明した。

この領域を共有→   
(22-85には、更に他の挿入が認められるような絵になっているが、contigの配置を無理矢理LT2に合わせているが、本来は他の領域の断片と思われる。)

愛媛株でもこの箇所に大きな欠失が認められたが、山口株/CVM23701に共通する挿入配列は異なり、欠失のパターンも異なっていた(hinまで欠失)。SNP系統解析の結果と一致している。

血清型別が Typhimurium とならず、型別不能となった。

11

### *Salmonella* 4, 5, 12:i:- とは

S. 4, 5, 12:i- は、近年、世界中の多くの国でヒトの感染性胃腸炎の原因菌として問題となっている。

遺伝子型的には、*S. Typhimurium* の近縁で、鞭毛抗原の第2相抗原を発現できない。

第2相抗原を発現できない分子機序については複数の機序が想定されているが、不明な点も多い。

## S. 4:i:- 株のゲノムおよびプラスミドのNGS解析

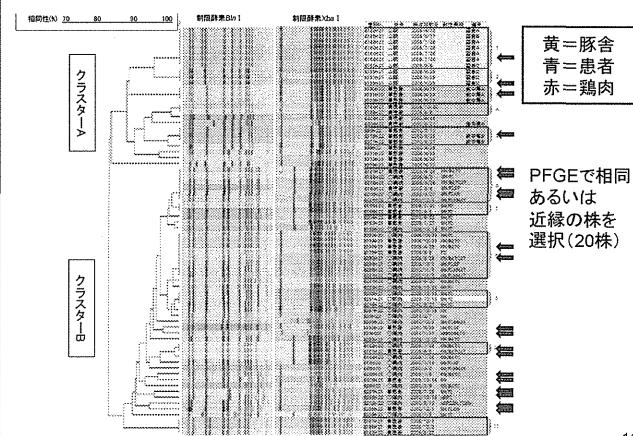
### (5) プラスミド解析

プラスミドDNA配列をNGSで決定した。168,679 bp と6,465 bp の2つのcontigが得られた。

薬剤耐性として、CTX-M-55を保有し、セフェム耐性に関与している。他の薬剤感受性試験にそった遺伝子も見つかっている。詳細について解析中。

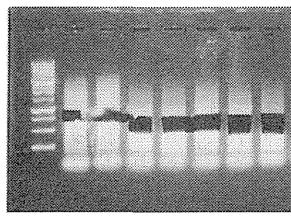
13

## S. InfantisのPFGE 解析 vs NGS解析



14

## S. InfantisのNGS解析



ライブラリの切り出し  
(7+13=20株)  
↓  
NGSシークエンス(終了)  
↓  
データ解析中

15

## まとめ

1. S. 4:i:- 愛媛株ゲノムのNGS解析により、新しいタイプのS. 4, 5, 12:i:- 株であり、fliA, B遺伝子を欠損することが明らかにされた。
2. S. 4:i:- 愛媛株プラスミドのNGS解析により、CTX-M-55等の薬剤耐性遺伝子を保有することが明らかにされた。
3. 豚舎、鶏肉、患者由来のS. Infantis 20株のゲノムをNGS解析し、そのシークエンスに基づく系統解析から、株間の関係を明らかにし、PFGE解析との比較を実施する(解析中)。

16

## 来年度の予定(案)

1. サルモネラ株の解析を進展させる(株数、種類)
2. 薬剤耐性菌での解析(来年度から別研究課題として薬剤耐性菌株を収集・保管する予定)
3. ウィルスでの応用(メタゲノム解析など)

17

### III 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

著者名	論文タイトル名	発表雑誌	巻号ページ	出版年
Sasaki K, Toda S, Shirabe K, Takahara M, Harada S, Morishima T, Ichiyama T.	Analysis of bronchoalveolar lavage fluid in a mouse model of bronchial asthma and H1N1 2009 infection.	Cytokine.	63(2):194-200.	2013
Tsukagoshi H, Yokoi H, Kobayashi M, Kushibuchi I, Okamoto -Nakagawa R, Yoshida A, Morita Y, Noda M, Yamamoto N, Sugai K, Oishi K, Kozawa K, Kuroda M, Shirabe K, Kimura H.	Genetic analysis of attachment glycoprotein (G) gene in new genotype ON1 of human respiratory syncytial virus detected in Japan.	Microbiol Immunol.	57(9):655-9.	2013
Niwa S, Tsukagoshi H, Ishioka T, Sasaki Y, Yoshizumi M, Morita Y, Kimura H, Kozawa K.	Triplex real-time polymerase chain reaction assay for detection and quantification of norovirus (GI and GII) and sapovirus.	Microbiol Immunol.	58(1):68-71	2014
Miyaji Y, Kobayashi M, Sugai K, Tsukagoshi H, Niwa S, Fujitsuka-Nozawa A, Noda M, Kozawa K, Yamazaki F, Mori M, Yokota S, Kimura H.	Severity of respiratory signs and symptoms and virus profiles in Japanese children with acute respiratory illness.	Microbiol Immunol.	57(12):811-21.	2013
Tsukagoshi H, Ishioka T, Noda M, Kozawa K, Kimura H.	Molecular epidemiology of respiratory viruses in virus-induced asthma.	Front Microbiol	12;4:278.	2013

Ishioka T, Yamada Y, Kimura H, Yoshizumi M, Tsukagoshi H, Kozawa K, Maruyama K, Hayashi Y, Kato M.	Elevated macrophage inflammatory protein 1 $\alpha$ and interleukin-17 production in an experimental asthma model infected with respiratory syncytial virus.	Int Arch Allergy Immunol.	161 Suppl 2:129-37.	2013
Kushibuchi I, Kobayashi M, Kusaka T, Tsukagoshi H, Ryo A, Yoshida A, Ishii H, Saraya T, Kurai D, Yamamoto N, Kanou K, Saitoh M, Noda M, Kuroda M, Morita Y, Kozawa K, Oishi K, Tashiro M, Kimura H.	Molecular evolution of attachment glycoprotein (G) gene in human respiratory syncytial virus detected in Japan 2008-2011.	Infect Genet Evol.	18:168-73.	2013
Takanashi J, Taneichi H, Misaki T, Yahata Y, Okumura A, Ishida Y, Miyawaki T, Okabe N, Sata T, Mizuguchi M.	Clinical and radiologic features of encephalopathy during 2011 E coli O111 outbreak in Japan.	Neurology.	18;82(7):56 4-72.	2014
Obuchi M, Adachi Y, Takizawa T, Sata T.	Influenza A(H1N1)pdm09 virus and asthma.	Front Microbiol	14;4:307.	2013
Kanatani J, Isobe J, Kimata K, Shima T, Shimizu M, Kura F, Sata T, Watahiki M.	Close genetic relationship between Legionella pneumophila serogroup 1 isolates from sputum specimens and puddles on roads, as determined by sequence-based typing.	Appl Environ Microbiol.	79(13):3959-66	2013

Kanatani J, Isobe J, Kimata K, Shima T, Shimizu M, Kura F, Sata T, Watahiki M.	Molecular epidemiology of Legionella pneumophila serogroup 1 isolates identify a prevalent sequence type, ST505, and a distinct clonal group of clinical isolates in Toyama Prefecture,	19(4):644-52.	Japan. J Infect Chemother.	2013
Asano Y, Karasudani T, Tanaka H, Matsumoto J, Okada M, Nakamura K, Kondo H, Shinomiya H.	Characterization of the Escherichia coli O157:H7 outbreak strain whose Shiga toxin 2 gene is inactivated by IS1203v insertion.	66(3):201-6.	Jpn J Infect Dis.	2013

## IV 研究成果の刊行物・別刷

研究成果の刊行物・別刷

該当なし

